



美しい立ち技で 強くなりたい

ムエタイ日本一のチャンピオンになった浜田兄弟

ムエタイはタイの国技とされる立ち技の格闘技で、強さだけでなく美しさも求められ、採点に芸術点ムエタイで世界を目指す浜田 優雅さん・徠雅さん

タイ式キックボクシングとも呼ばれています。が加味されるなどの特徴があります。兄弟と、それを支えるご家族取材しました。



はまだらいが
浜田 徠雅さん

2023 東京ムエタイ大会
30kg王者獲得
50戦37勝8敗5分
速野小学校6年生(11歳)

はまだゆうが
浜田 優雅さん

2022 東京ムエタイ大会
35kg王者獲得
52戦29勝18敗5分
明富中学校2年生(13歳)



強くなるために、練習、練習、また練習(自宅・ジム)



浜田さんご家族

毎日学校から帰ったらすぐに宿題を済ませ、夕方からジムに通っています。試合の前には減量することも珍しくないとか。試合は東京や大阪で開催されることも多いので、参加するのは日帰りでも大変です。

家族は二人を全力で応援し、試合では朱美さんも声を枯らして声援を送っています。

「強く」「優しく」「それぞれの夢に向かって」

ムエタイ本来のスタイル(相手の攻撃をガードして反撃する)の優雅さんは、昨年の東京ムエタイ大会王者でシユニア日本代表選手4人の中に選ばれ、本場タイの選手と試合をしました。「ずっとタイの選手と戦ってきた。判定負けだったので、もう一回タイの選手と戦って勝つことを目標にしています。」

徠雅さんは前に出てがんでなくキックボクシングなども得意。2月、3月と続けて王者を獲得しました。「上の階級のトーナメントでベルトを勝ち取りたい」と闘志を見せます。

兄弟を見守る幸太さんと朱美さんは「人に優しくできる、人に尊敬されるような大人になっしてほしい。この競技ならそれができると思っています」と、二人の未来に大きな夢を描いていました。

男の子ばかりの3人兄弟。元氣盛りで兄弟げんかが日常茶飯事の浜田家で一番年下、当時小学1年生だった徠雅さんは「お兄ちゃんに負けたくないくらい強くなりたい」と思っていました。

おじいちゃんはプロボクサーで、お父さんの浜田 幸太さんも格闘技ファン。負けず嫌いの徠雅さんの性格に合つかない、と考えた幸太さんは、大津市のジムでムエタイを体験させてみることにしました。

ジムに通い始めた徠雅さんがあまりに楽しそうに笑って帰ってくるので、数カ月遅れて4年生だった優雅さんも行くことにしました。優しくおっとりした性格の優雅さんも、今では「将来はムエタイのプロ選手になりたい」と同じ夢を追いかけて、兄弟仲良くジムに通っています。

優雅さんと徠雅さんがあまりに真剣にムエタイに取り組むのを見ているうちに、「応援するために」と観戦専門の格闘技ファンだった幸太さんも、初心者コースで習いはじめたそうです。

ムエタイは日本ではどちらかといえばマイナーなスポーツですが、タイでは国技です。相撲と同じく、礼儀や格式を大切にしているのが、観戦しながら泣いていました。

気持ちが変わってきたのは、優雅さんと徠雅さんの真剣さを間近で見えたから。朱美さんは「正直これほど本気だと思わなかった。今でも礼儀が心配です。でも、こんなに熱中し、努力する子どもたちを見てそれ以上に尊敬するようになりました」と話していました。

ムエタイづくしの生活を家族で支え応援する

優雅さんと徠雅さんは、初心者から始めて、現在はエキスパートクラスに所属しています。

兄弟の「本気」が お母さんの気持ちを変えた